

能美市地域福祉活動計画 第2回アクションプラン推進協議会

1. 開催日時：平成20年9月8日(月)午後1時30分～

2. 開催場所：辰口健康福祉センター ホール

3. 出席者(敬称略)

高塚亮三(福祉施設等)、宮田明(市自治公民館協議会)・・・地域福祉人づくり委員会

今川清知(一般公募)・・・地域福祉ネットワークづくり委員会

喜多泉(子育てに関わる団体)、近藤沙夜里(一般公募)・・・地域福祉支えあいのしくみづくり委員会

西川方敏(市ボランティア連絡協議会)、田中策次郎(一般公募)・・・私たちのボランティアセンターづくり委員会

宮本長興・吉田健造・新川葉子・南敦子・南野和美・仁地美代・新田亜希子・森田友貴(市社会福祉協議会)

欠席者(敬称略)

西 邦昭、西出紀代美・・・地域福祉ネットワークづくり委員会

4. 会議次第

1. 開会の挨拶

2. 各アクションプラン委員会からの報告

3. 第4回能美市社会福祉大会での報告

4. 今後の予定について

5. その他

6. 閉会の挨拶

事務局長： ただいまから、第2回アクションプラン推進協議会を始めさせていただきます。始めに会長の方からご挨拶をお願いいたします。

宮本会長： お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

皆様方には、日ごろより、それぞれのアクションプラン委員会の開催について、大変、ありがとうございます。

開催されるごとにいろんな問題が出ておりまして、今更ながら社会福祉協議会として十分な対応ができていないというか、そこまで手につかなかったというか、様々な問題が

出ております。社会福祉協議会としましては、昨年度、策定しました活動計画を基に、今年度から、市民のためのより充実した社会福祉協議会としてのはたらきを評価していく節目の年となると思います。

皆様方からいろんなことを教えていただきながら、共に考えながら、地域福祉の発展につながる議論をしたいと思いますので、これからもどしどしご意見をお願い申し上げます。今日は、本当にありがとうございます。

事務局長：それでは、高塚委員長の方でごあいさつをいただいた後、進行をお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

高塚委員長：皆さん、こんにちは。2ヶ月ぶりに顔を合わせたわけなのですが、「私たちの人づくり委員会」の状況から考えますと、とても時間が足りないような感じです。我々もどんどん勉強していかなければならないわけでありまして、活動計画というきちんとした計画をいただいているわけですから、もっともっとそれを読みこなしていけないといけないわけです。また、読みこんでいけばいくほど、何か、疑問がたくさん出てくるような感じも致します。しかしながら、この活動計画の大筋というものは、変えることはできないので、大筋に従って、5年間やっていくということですから、それはそれとして大切にしていきたいと思います。

更には、我々に課せられた課題は、この1年間でどういう風にきちんと計画をやっていくのかということですので、今から、それぞれの委員会でのご報告をして頂きたいと思います。「人づくり委員会」は、時間が足らなくて、9月17日にもう1回やろうということになっています。

では、「人づくり委員会」から、進めさせていただきます。

「人づくり委員会」は、8月28日に開催致しました。そこで話し合われたことをかいまつんで、宮田さん、私の方から話をするということによろしいですか。

宮田委員：はい。

高塚委員長：計画書なのですが、前回のアクションプラン推進協議会の方で、体系図とアクションプランとの関係をもう少し明確にした方がいいのではないかということで、事務局の方で、それぞれの委員会に、その関係する部分についてはお渡ししてあるんですよね。

事務局：それぞれの委員会の事務局の方にお出ししてあります。

その委員会の進み具合に応じて、相談しながら出すということで、「人づくり委員会」の方では、早くにお出ししましたが、他の委員会では出ていないところもあると思います。

高塚委員長：そうですか。それで、「人づくり委員会」では、この活動計画のアクションプランと福祉計画を対比させて、5年間の計画ですけれども、今年度の計画の在り方というものをしっかりと整理していこうということで議論を致しました。

委員の中からは、ただ単に写し変えただけではないかという話もあるのですが、しかし、この計画に謳われていることの骨子が外れてもいけないし、また、方向を大きく踏み外すには、何らかの手続きが必要になってくるんだろうと思っています。

それから、地域福祉活動計画は、市の活動計画と本来は、連動していくべきものだと思います。地域福祉計画の方は、2年目に入っています。初年度の評価というものがどういう風になされているのか、もう1つ、よく分からないんですけれども、そういうものとお互いに付き合っていくような機会がひょっとしたら必要なのかなとも思っています。

逆に言えば、活動計画と地域福祉計画の位置付けというものをもう少し明確にしていかなないと、この活動計画のP32～P33あたりが、少しずつ、表現が曖昧な部分があるように思います。

そう感じる人とこれでいいと感じる人がいるかもしれませんが、そこらへんを1回どいう考え方かということをしっかり伝えていきたいと思っています。

活動計画は、市社協におりてきたものですから、狭い意味での福祉ということになりがちではないかと思っています。しかし、これは、地域福祉計画を推進するための具体的なアクションプランという位置だろうということを考えると、社会教育だとか、防災だとかいう広い意味での福祉ということを視野に入れていかなければならない。各委員もそういう構成になっているはずですので、そのところをしっかりと、地域福祉活動計画と地域福祉計画のところをきちんと見ていくことが、重要ではなかろうかと思っていることを話しました。

また、アクションプランの委員としての活動、委員としての視点もさぐりながら、他にも一市民としての視点もありますし、自分たちが、寄って、なり立っている団体、これまでの豊富な経験等、いろんな視点があるわけですね。そういういくつかの多面的な視点で活動計画を取り組む必要があるだろうということです。

さらには、「人づくり委員会」として評価する場合に、何を評価していけばよいのか、

先ほど言いました多面的な視点があるということですが、やはり、参加人数だとか、評判だとか、その事業の楽しさの質だとか、もちろん一番大事なことはその事業の目的が、きちんと達成されているかどうかというところにあるかと思うのですが、そういうところを評価していかなければならないと思います。

楽しいだけではないんだと、楽しさの質ということなのですが、知的障害者の親の立場からの意見として、とにかく触れ合っていてほしいのだという話がありました。

会場に来て、事業に参加しても、参加者の中に障害を持った人もいだけではだめなので、実際に、障害のある人と触れ合う、感じ合うということがないと事業が、達成されたわけではないということで、「人づくり委員会」にとって、その評価というのが、非常に難しいのが実感ですが、何らかの形でそこをきちんと話していこうということで思っております。

8月28日だけでは、話し尽くすことができない、少なくとも社会福祉大会に臨むその報告をつくらないといけないということですので、9月17日にもう1度集まって意見交換したいと思います。

今川委員：私は、委員会の中では、評価とかアクションプラン委員会の中身等は、全く、話しておりません。とにかく地域福祉委員会が、いかに立ち上げていただけるかというようなことを話していきたいと思っております。

私の委員会の中の副委員長さんが、病気がちだから、そんな中で、8月25日の委員会では、もう1名、副委員長を置こうということになり、たまたま、私が、寺井地区で、西副委員長が辰口地区で、ということなので、根上地区の方から、西出さんを選ばせていただいて、2人の副委員長を置かせていただきました。その2人も今日ここへ来るはずでしたが、たまたま2人とも欠席という事でございます。

私どもの委員会は、狭い意味での福祉と言え、そういうことになるわけなのですが、一番、目に付くアクションプラン委員会だろうと思っております。そんなところで、モデル地区の連絡会へとりあえず、研修として参加しました。西任田町の設立総会に立ちあわせていただき、各地域福祉委員会とも連携しながら、アクションプラン委員会自体が勉強会だというようなことでやらせていただいています。しかし、現状のいきいきサロンや見守り会がどんなことになっているのかということを皆さんが、まだ、十分に把握していないわけです。

ですから、そのこと自体を把握して、分かっているしながら、前に進まないとなかな

か、進みづらいと思っています。

現状の設置状況は、別紙にあります。根上地区は11地区、辰口地区が17地区、寺井地区が7地区、合計35地区ということになっております。

それから、設立総会が完全に終わったというのは、西任田町です。西任田町が、一番、組織がしっかりした形の中で、70人くらいのほとんどの町民の方が出ていたのではなかろうかと私は感じました。

他の町もその通りに、同じ組織という事にはいかないけれども、私どもの委員会の委員の方には、そのモデルの資料を差し上げておりますが、そんなことを各地区で、できるだけ分かるような状態にしてあげればいいかなと思います。

いろいろ、細かい点についてのお話もうかがいますけど、とにかく、現状としては、各町会等の説明の機会等については、100%、社協で進めていただいておりますが、私たちもその中に参加していかないと、町会長さん方のご意見等がわからなくなります。寺井地区あたりからは、「見守り会ができていのに、他にまだ何をしなければならないのか」という声も聞いたりもしますので、その辺のところも理解していただけるようにすることが、アクションプラン委員会の目指すことになってきますから、その努力もしなければと、まあ、私としては、時間をさかねばならないかと思っております。

町民の皆さんは、地域福祉委員会の中でおしゃべりしなくても、その場所に参加しているだけでも、いいのではないかと考えております。とにかく、たくさんの数の地域福祉委員会の申し込みがあったので、アクションプラン委員会の皆さんにも設立総会に出席していただき、その活動に協力していきたいと思っております。

次回の会は、9月29日に予定しております。第3回目の委員会として、いろいろとお話をしていきたいと思っております。一步でも地域福祉活動が前進するよう努力していきたいと思っておりますので、アクションプラン委員会の皆さんにも是非ご協力いただきたいと思っております。

高塚委員長：どうもありがとうございます。それでは、支え合いのしくみづくり委員会の方からお願い致します。

喜多委員：「支え合いしくみづくり委員会」は、8月18日に行われました。その前回で課題になっていたことですが、「どのようにして、今、始まっているファミリー・サポート・センターのことを周知していくか」ということや、「支え合いの中の子育て支援という部分について市民の方々に知っていただき、参加して頂くか」、「そのためにはどんな手立てを取

ればいいか」が課題でしたので、そのことについて話し合いをしました。

とりあえず、子育て支援について、あまり内容を理解してもらえていない方のご意見の中に何があるかと考えましたら、支えてあげようと思うけれども、「他の子を面倒を見てあげるようなことに責任が持てないよ」という、そういう思いがある方や、「支援なんて必要ではないのではないか」、「我が子を見るのは自分、親なのだからそれが当たり前」という思いで理解を示してくださらない方・・・とそんなところかなと、そこらへんをきちんと話していかなければいけない、詳しく実態を報告して、実践の報告をしながら分かかっていってもらうのが、一番いいねということになりました。

これから後、いろんな集まりが地域で行われると思います。例えば、お年寄りの方が集まる集会であったり、町内会長さんが集まる集会であったり、親子が集まる集会であったり、保育園での保護者会であったり、そういう場所を説明の機会に使わせていただくということで、各地区の催しもののある日時を全て出させていただきました。

それを、この会の前に事務局から出していただいたので、それについて、どの日に行けるかとチェックしながら、行く日と場所を決めました。

とりあえず9月、10月については、行くことに決めたのですが、ファミリー・サポート・センターのシステムの紹介と、実際に今、動き始めて、どんな状態でどんな動きがあるのかを具体的にお話しさせていただこうということになりました。

この会の後、辰口の民生委員の会がありましたので、そこで第1回目のファミリー・サポート・センターの現状とその動きの内容についてもお話しさせていただきました。

耳を傾けてくださったなという思いがあって、民生委員の方々もファミリー・サポート・センターへ見学に行ってくると言ってお下さり、そういう風に何かを知らせていくためには動かなければならないということを話し合っています。

また、更に、市民に伝えていかなければならないことは何なのかということをお次回10月2日に話し合い、更に社会福祉大会でのアピールについて、次回、話し合うことになっております。以上です。

高塚委員長：どうもありがとうございました。

それでは、西川さん、よろしくお願い致します。

西川委員：「私たちのボランティアセンターづくり委員会」は、8月25日に行われました。

第1回目では、自己紹介からということでしたが、欠席もありましたので、もう一度、そこら行いました。

まず、ボランティアセンターというものは、どんなものなのかという現状把握ということで、事務局に資料を作っていただきました。地域福祉活動計画体系図とアクションプランの内容など、そのことについて説明してもあまりピンとこない方もいたんですが、とりあえずは、資料に基づいて話を進めていきました。

その中で出てきた意見の中には、例えば、シルバー人材センターが作っているような、やれることの一覧表等があれば、参加したいという人も増えるのではという意見の人もいました。また、ボランティアセンターの拠点が、もっと身近なところにあってもいいのではないか等、いろいろ意見が出ました。まだ、現状把握が、それほど進んでいませんので、今後も現状把握の議論をしながら進めていきたいと思っております。

あと3回ということで、第2回目を踏まえて、宿題という形で地域福祉活動計画の冊子の内容をもう1回、考えてきてほしい、それを次回につなげるとか、そんな感じです。

「私たちのボランティアセンターづくり委員会」のアクションプランですが、1つ目は、ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会の構築、2つ目が住民の相談窓口としてマッチング機能充実、3つ目がボランティアの活動拠点としての情報システム構築、4つ目がボランティア個人や団体の活動支援や交流の場づくり、5つ目が各年代層や各地区・各分野へのボランティア意識の啓発と人材育成ですが、そのうち、運営委員会の構築と活動拠点としての情報システムの構築に 印がついていて、20年度からの実施予定となっています。

1つ目の運営委員会の構築については、いきなり議論しても、決められないだろうということで、それを最後に持っていこうと思います。あとの残り4つのうちどれからやるかということは、その場その場で集まって決める、場当たりのですが、そのような形でやっていこうかなと思います。次回は、10月20日月曜日を予定しています。

また、私自身が感じたことは、まだ一部の人だけの発言が主なようなので、なるべく多くの人の発言が聞けるそんな会にしていきたいと思います。議論が難しくならないように、具体的に進めて、いろんな方の意見を聞けるそんな雰囲気で行っていききたいと思っております。以上です。

高塚委員長：以上、4つの委員会の報告をしていただきました。委員会同士が、お互いに重なってくるような部分もあるかと思いますし、そう言ったところで何かお聞きしたいことはありませんか。

西川委員：「ネットワークづくり委員会」で、西任田の地域福祉委員会設立総会に参加されたと思う

んですが、それはアクションプラン委員会の何人かで参加して、見学するような、そんな形だったんですか。

今川委員：ネットワークづくり委員会の全員に案内したわけですが、全員は、参加しておりません。

西川委員：委員会としての参加ですか。

今川委員：はい、委員会として参加しております。

西川委員：そういうことも、実際、ボランティアセンターの委員会としても、必要かなと思いついて、今の質問を致しました。

高塚委員長：やはり、現場に立たないと、なかなかわかりにくいです。

田中委員：今、お話があった地域福祉委員会ですが、社協が把握しているところで、設立の総会を開いていらっしゃる地区の話を伺ったのですが、そんなふうに地域全体として設立総会をやっているという地域は、かなりあるのですか。

私ども小杉町も役員が集まり、設立総会的なことをしたんですが、そういうようなことを社協に報告するわけでもなかったし、自分らだけで、設立したという意識なんです、それが、今の話を聞いていると、やはり、せっかくなつくたのならば、地域の中に広げて、初めて設立総会かなと思ったわけです。やはり、全体的に町内の全員の方が参加するようなそんな風にやる方がベストなのですかね。

今川委員：そうですね。設立総会をしても、実際に稼動していくのは、幹事会とかになっていくだろうと思うけれど、やはり、地域福祉委員会は、町会や町内会が、こういうものが出発するんだ、みんなに知らせていくような、最初は、そんな風にしなければならないと思う。

西任田の場合は、幹事会のメンバーが、最終的には、8回くらい寄って準備会のメンバーになっていた。地域福祉委員会は1年に1回開催ということもあったりでもいいが、総会とかそういう時には、町会の出ていただける方は、参加したらいいのではないかなと思います。

田中委員：私らは、１回目２回目の会を開いているんですが、３０～４０人ぐらい程度でしかやっていないので、そういうお話を伺った時に、村全体を巻き込むような形の会をやるのが一番の目標になるのかなということを、今、話を伺いながら思いました。

今川委員：その形の出発は、小地域見守りネットワークに少し手が入ったような程度のメンバーなのかどうか、要支援者を支援するボランティアの会でもいろんな形があるわけだから、町会全体に拡大した形で、全世帯に参加を呼びかける形のものをされた方がいいかなと思います。なかなか大変なことだろうけれど。

田中委員：地域福祉委員会の方向性が、どんなものか、分かると私らもそういう方向性でいくとよいと、村に帰ってお伝えすることができるので、また、お話をお聞きもしたい。

今川委員：私らもまだ委員会の開催が、２回目なので、内容の細かいところまで集約していないのですが、できれば、地域福祉委員会の内容がわかるような形にしていった方がいいかなと思います。

田中委員：ありがとうございます。

事務局：９月１日、全戸配布になりました、社協広報誌ほほえみで、「この人に聞く」というコーナーですが、今川さんに出ていただきまして、ネットワークづくり委員会でどんなことをしていくのかということをお話していただきました。今のお話のように、地域福祉委員会の活動の内容や、予算のこと等、地域福祉委員会の活動の手引書を作っていきたい、それをネットワークづくり委員会の主な目的にしてやっていこうということを書いていただいております。このあと、順番に各委員長にこのコーナーを担当していただけたらということ、この場で、１つ、お願いしたいのです。

高塚委員長：今のところは、現状把握が中心であろうかと思います。ただ、委員会の回数など、ある程度、限られていますので、その辺のところをもう１回、計画をしていかないといけないかなと思います。委員会推進協議会自身は、あくまでも把握ということで、本当の実施者ではないですが、全てのことを視野に入れながら考えていかなければならないと思います

それでは、２番目は、これでいいですかね。

では、次の3番目も非常に大事な項目でありますので、とりあえず、このへんで3番目の議題に移っていきたいと思います。

第4回能美市社会福祉大会での報告について、事務局から、説明をお願いします。

事務局：前回の第1回アクションプラン推進協議会では、活動計画が、現在、どんな状況で進んでいるのかという取り組みの様子を、社会福祉大会で市民の皆さんにお知らせすることに決まりました。

日時は、平成20年10月11日、土曜日、13時30分から15時30分頃ということで、場所は、寺井地区公民館のホールです。

社会福祉大会の例年の内容は、市社会福祉協議会長表彰ということで、いろいろな福祉活動、地域活動をされている方の長年の活動を表彰するということと、参加者が地域福祉や社会福祉に対する意志を表す大会宣言ということで行っております。

今年は、寺井地区の荒井さんが大会宣言者ということが、先日、決まりました。

そして、太字で書いてありますが、この部分が、地域福祉活動計画の実施の状況の報告になります。今、お話が出されたような報告と、それから、この協議会での話をもう1回、各アクションプラン委員会に戻すというやり取りをするという話だったと思うので、それぞれの委員会で、また、この協議会の話を報告していただき、そして、その結果をアクションプランの委員会として、3分～5分間ずつの時間で報告するということだったと思います。それを踏まえて、全体としまして、この推進協議会の報告と、それから評価をどのような風にしていくのかという評価委員会からの評価ポイントのお知らせをするというのが、だいたい30分ほどで行うという話だったと思います。

それから、最後に、全体の報告としまして、地域の支えあいや絆をどうするというのを考えていきたいということで、輪島市の地震の例を1つ、参考としまして、輪島市社協の事務局長の七尾さんから報告していただくことになっています。

この社会福祉大会は、社協の構成組織、団体関係には、それぞれ参加のご案内は送っているほか、広報誌や市内無線での一般の方への呼びかけをしていきたいと思っております。今日は、推進状況の報告ということで、約3～5分間の各アクションプラン委員会の報告、そしてこの活動計画のアクションプラン推進の全体としての報告、評価委員会からの評価のポイントという事でご検討頂ければいいかなと思っております。

高塚委員長：どうもありがとうございます。ここに書いてあることの全てを入れて、2時間ということですか。4番については、どれくらいの時間の予定なのでしょうか。

事務局：例年でしたら、市社協会長表彰、大会宣言で30～40分。その間に、5分程度、休憩を入れて、セミナーをしたり、講演を行うというパターンだったのですが、今年は、推進状況の報告をしまして、最後は、輪島市の報告が入ることになっています。

高塚委員長：そうすると、だいたい1時間弱くらいになりますかね。アクションプラン委員会からの報告は、今日、しゃべったようなことを3分程度でお話するという、だいたい、そのようでよろしいですね。また、その後の推進協議会として何を話すかというこのところが、20分もあってそんなに時間が足りない気がしますけれど…。
ただ、今日は、評価委員会の人たちが誰も来ていないということで非常に残念ですが。

西川委員：報告といいましても、まだ2回しか、委員会を開催していないですし、総括的にいえば、社会福祉大会に参加している皆さんも一緒に考えてほしいとか、そういうような雰囲気づくりがあってもいいかなと思います。

高塚委員長：それは、推進協議会の仕事として、ですか。

西川委員：はい。少し抽象的ですが…。

田中委員：私も、今、話を聞いていまして、順序的には、アクションプラン推進協議会と評価委員会からの報告を、先にもってきた方がいいと思います。そこに集まっていだいています皆さんが、こういうものがあるというものを、全員が全員、言葉として聞いた事があっても、理解は、まだあまりないと思うので、改めてかもしれませんが、今、活動計画の取り組みをこういうことをやっているということのポイントの部分をお話しして、それを受けて、どういう評価を考えているということをひとつ言っていただく方がよいと思います。

そして、その後に、各アクションプラン委員会から、実は、こういうことをやっていますというようにした方がいいのではないかと思います。最初から説明しないとどうしても各アクションプラン委員会が、また、一から説明していかなければならない、そうするとあまりにも長い時間になってしまうので、何を指して、何をやっているのかというように、先に、全体的なことを話された方がいいのかなと思います。

高塚委員長：そうすると活動計画が、去年、やってきた地域説明会を１０分間で話すというような感じですかね。

田中委員：全体のところを理解されていない事を頭において、「何度も何度」も、というところが必要なのかなと思います。

高塚委員長：今の感じだと、推進協議会としての報告は、体系図みたいなものを出してですね。
アクションプラン委員会からの報告は、アクションプランの現状について、５年間の計画の初年度としてやっていることを報告する、そんな形でよろしいですかね。

今川委員：評価委員会を外してしまったらいいのではないか。
評価委員会を一番最後にして、アクションプラン推進協議会の話の先に持ってきて、次に各アクションプラン委員会からの報告、そして、最後に評価委員会からの報告を持ってくる、そんな形の方がいいかなと思いますが。

高塚委員長：評価委員の方は、まだ、あまり評価の方が進んでいないようですから、評価委員はどんなことをするんだというところをもう一度、話していただくということですかね。

事務局：資料的には、体系図を大きなものにしたものを１枚だけ出すということですか。

高塚委員長：あまり詳しいことを言っても難しいと思いますね。

田中委員：要約筆記も付くのであれば、あわせて考えていかなければなりませんよね。

喜多委員：体系図を知っていただいてもいいわけですし、会場に来られた皆さんに、興味を持ってくださいという意味で、体系図を渡す、それと、計画書の各アクションプラン委員会の最初のページのＡ４のところをつけていただくと、だいたいが分かっていたかなと思います。目で見ると、引きつけられるというのがあるので、知っていただきたいということで、最初に出してもらって、それから各アクションプラン委員会が説明をすればいいかなと思います。

事務局：活動計画の保存版を活用してもいいですよ。そうすると、説明も始めから言わなくて済

むかかもしれませんね。

田中委員：今、喜多さんがおっしゃっていました、活動計画の各アクションプラン委員会の説明（P 15・19・23・27）の部分があるとすごく分かりやすいと思います。また、各委員長さんも説明が、楽だと思います。

事務局：それではそうします。

近藤委員：前に大きなスクリーンもあれば、それに映し出すと、今、どこのことを言っているのかも非常に分かりやすいと思います。

事務局：そうしましたら、前にスクリーンを出すとなると、委員長さんや報告される方は、舞台上、その前に並んで座っていただくという形でよろしいですね。

高塚委員長：私の方は、推進協議会としての話もすることになりますね。

事務局：そうしましたら、高塚さんは、次の「人づくり委員会」報告と続けての報告になりますが。

高塚委員長：宮田さんもいますので。宮田さん、「人づくり委員会」の方をお願いできますか。

宮田委員：わかりました。

西川委員：アクションプラン委員の名簿などは、市民の皆さんに知らせてあるんですか。広報はしてあるのでしょうか。

事務局：広報はしましたが、委員長、副委員長さんの名簿しか出ていないです。ほかの委員さんの名簿も全部、お出ししますか。

西川委員：もしも、何か、意見を持っておられる方がいたら、「アクションプラン委員の方に伝えてください」等、そういった宣伝もしてもいいのかなと思うんですけども。いろんな立場から出ている委員がおられるわけですから。

事務局：そうですね。多面的な意見をいただくというような形にしたらいいいですね。

西川委員：10月に広報するわけですから、その時にフィードバック、どのように受け止めるかということを一言、付け加えたらいいかなと思います。

高塚委員長：やはり、こんな狭い能美市でも取り組み方が、かなり違っているわけです。寺井、根上、辰口の各地区、独特の取り組み方をしていると思います。

地域福祉計画は、身近なもので、必要な事が書かれている、そこをきっちりと伝えていかないといけないと思います。

今川委員：小杉町も西任田町も宮竹町も皆それぞれの現状を特徴として出しているわけで、モデルがあってもそれでいい。モデルがほしい地区もあるわけで、ある程度のモデルは出しますが、あとは、それぞれの実情です。大きい在所や小さい在所もあり、地区ごとで歴史も違うわけで、そこはそこまで、心配しなくてもよいと私は思います。

ただ、いつ、自分のところが、災害になるか分からないのであって、皆さんもいろいろと考えているわけですが、地域福祉委員会は、すでに頭の中に、見守りのことなどが入っていても、まだ、地図の上で、避難場所はここですよという程度でしか案内していないわけです。

感じていることは、今までは、民生委員児童委員、ボランティアが中心になって、いきいきサロンや見守りネットワークを動かしてきただろうと思っています。これからは、今の町会長さんに出てきて下さいと働きかけて、動いてもらわないといけないわけですが、現状では、皆さん、いろいろな仕事を持っているので、地域福祉委員会が発足しても、内容が充実するまでは、時間が、結構、かかると思うわけです。

喜多委員：いろんなことが起こった時に、支え合いや人づくりやネットワークは、全ての人がつながって、育ち合っていくために必要なことなんだと思うんです。同じことをしていかなければならないんだと思います。全体の皆さんのおさえなければならないことを、当り前のことを言葉にして報告し、何かをやっている人だけがやるのではなく、「地域の皆がつながる」ということをすでに分かっているんだけど、このことを改めて、言葉で最初に伝える、そのためにおさをきちんと伝えていけたらと思います。

高塚委員長：結局は、昔は、助け合いをしないと、生きていけなかった。例えば、農作業を全戸の

7割ほどやっていた時代が、つい、半世紀前、あったわけですね。そういうことを経験しているお年寄りであれば、ネットワークが当り前の時代を生きてきたわけです。それが、我々から下の年代は、だんだんと「ネットワーク」ということを言わないといけない時代になってきたというところをきちんと伝えていかないといけないなと思います。

喜多さんもさっきおっしゃったみたいに、子育てをやるのは、親の務めだとか、それは当り前のことなんですけれども、昔は、ちゃんと助けてもらえるしくみがあったわけですね。赤ん坊を少し見てほしいと言えば、お金の話などしなくたってやっていた時代です。極端に責任感を感じなくたって、軽い返事で、これは、今から考えますとぞっとするような簡単な手続きでやっていたわけです。もしも事故が起こったとしたら、今の時代だとしたら裁判になりかねない、そのところが、一番ネックになっているのだと思います。やはり、個人情報等の法律ができたりして、だんだんと自分の殻に閉じこもってしまっている気がします。

昔通りの仕組みではやっていけないわけで、全く新しい仕組みをつくっていかねばならない。「ネットワーク」というものは、非常に大事なわけけれども、何でもかんでも、共生化できるわけでもないが、共助というものが、発揮できる地域福祉というものを1人ひとりに考えてもらうことが、一番ではないかなと思います。

宮田委員：地域福祉委員会は、皆さん、一番、関心を持って参加される方が多いと思いますので、このことの報告事項や現状報告等をどこかに入れたり、災害時の時の輪島の講演会の後にこういうことを能美市ではやっていますよということを伝えた方がいいのではないかなと思います。

西川委員：アクションプラン委員会としては、ネットワークづくり委員会が、地域福祉委員会の管轄の範囲に入ってきますから、そういった中の話に入れてもらうとかでいいんじゃないですか。

今川委員：地域福祉というのは、とても範囲が広いわけですが、私らの話し合っている地域福祉委員会は、狭い範囲のことです。ある程度、狭い範囲からの状態で出発しなければなかなか思うようには進まないと思う。子供も、障害者も含めて狭い範囲からサポートしていかなければならないと思う。また、年代が変わった時に、次のステップを考える、そして、またそれを広げていく等、最初からなんでもかんでも、地域福祉委員会で担ってい

くことは、とてもじゃないが大変だと思う。

宮田委員：西任田町の例が出されています。頑張っているけれど、ここにもし、構成委員が 4～5 人しかいなかったら、ここは、あんまり頑張っていないんじゃないかなとか、そんな感じに受け取られてしまいます。的を絞ってやりなさいよということならば、本当は、地域福祉委員会を構成するメンバーをもっと絞った方がいいのかもしれないと思いますね。

今川委員：構成委員メンバーもだいたい絞ってあるわけです。

高塚委員長：皆さんにお知らせするとしたら、今年度は、モデル地区くらいでしょうね。

事務局：口答で今川委員長にお話してもらった方がいいような気がします。そして、地域福祉委員会の設置数は「何件」という件数を出す、同じように、ファミリー・サポート・センターの今の実績、利用者数も喜多委員長の報告の中でお知らせするということがでょうか。資料的なものもつけた方がいいでしょう。

西川委員：アクションプラン委員会でデーターを出すことも必要かもしれませんね。

高塚委員長：こういうもの（平成 20 年度地域福祉委員会設置状況表）は、地域福祉委員会には配布をする予定はあるのでしょうか。

事務局：町内会長さんには出していないです。ネットワークづくり委員会と、民生委員の理事会だけです。民生委員協議会の役員は 13 人です。

西川委員：それは、市の民生委員児童委員協議会の理事会のことですね。

事務局：このままの一覧表を出すと、地域福祉委員会の設置の数だけの話になってしまってもいけないですし、その活動の質や設置に至るまでのプロセス等のこと、準備会を何回もしながら進めてやってきたことなどの説明が必要だとも思います。

高塚委員長：地域福祉委員会は、非常に大事です。けども、本来は、5 年かけてやることですからね。初年度で全部達成ということではないですからね。

今川委員：地域福祉委員会の設置、設立総会などは、今年中におそらく終わらないだろうし、全部が終わるということもないです。けれど、大きな意味では、トータルでいえば、市全体のネットワークということにならなければならない。それを、能美市が最後には期待するだろうと思われる。

田中委員：先ほども言われたように、一番、関わる人が多い分野ですので、当日、そこにおいでた方が、1つでも何かヒントを持って帰ることができるものがあつたらいいと思います。質疑応答の時間等は、あるのですか。

事務局：ご意見としてこれからの話し合いに反映させていくとかそういうことですかね。

アンケート等にしますか。地域福祉委員会だけでなく、ファミリー・サポート・センターやボランティアセンターなどにも質問とかご意見とかが、あるかもしれないので。

田中委員：質問をその場で答えなくてもいいと思う。逆に、答えて、それが、全ての答えではないので、各地域で考えて、自分の地域らしさをもって進めていく事が大事な事なので、短時間で答えて、誤解を受けるようなことがあっても大変かなと思います。その場で、答えないことが、逃げ道になるかもしれないんですけども。

高塚委員長：活動計画というものが、大筋であるわけですから、それをきっちり照らし合わせながらやっていかないと答えられないと思います。地域福祉委員会からの報告というものは、来年の大会の課題くらいにしといた方がいいかもしれませんね。

田中委員：でも、今からやろうということを話していて、やってみたら違っていたということを発表されても困ります。今だったら、宮竹町のようにきちっとしたことをやっているところを、報告するのであればいいけれど、そうでない状態のところが集まって話しても、また、変ですよ。

事務局：やってみて、ここが違うなとか、課題であることに気づく事ができること自体が大事なことだと思います。机の上だけで話しているだけではなく、やらないと分からないわけなので、その報告でもいいと思うんです。

「やってみて、触れてみて、感じてみての人づくり」。これは、人づくり委員会の中で、委員の橋本さんが、非常に言われていた事なのですが。

今川委員：狭い意味での話ですが、モデル地区は1年だけですか。来年度は、来年度でまたやっていくということですか。

事務局：そうですね。それも今からの話し合いなんです。

宮田委員：やってみないとわからないことをやることって、大変ですね。

事務局：それが「私たち流」だと思います。主語が「私たち」なんです。自分たちが、進む道をつくっていくということで、「つくられた道を進んでいくのではないよ」ということが、この計画だったと思います。自らが、もがきながら、つくっていこうということで、今までとは、非常にそこが違うと思います。なかなか難しいと感じておりますが。

高塚委員長：反省会と「評価する」ということは、相当、違うという感じはします。これまで、事業をやって、それなりの反省会をやってきたわけですが、評価と言われるとまた違うもんだなと感じています。各地区の地域福祉委員会の報告については、3月のフォーラムの時に、どうするのか決めていきたい。

10月の社会福祉大会では、活動計画の実施状況話の報告については、まず、アクションプラン推進協議会が、方向性をきちんと説明する。それから、それに続いてアクションプラン委員会の報告をし、そして、最後に評価委員が、どんなことをするのかというようなお話をする、という、そういう流れでよろしいでしょうか。

ということで、3番目の話はよろしいでしょうか。それでは4番、今後の予定について事務局の方からお願い致します。

今川委員：ちょっと待ってください。4番目のこれは、「報告」となっていますが。

事務局：「報告」という形の方がいいかなと思いました。「講演」というような言い方にしようかとも考えたのですが。

今川委員：せめて「体験報告」みたいな言い方の方がいいのではないのでしょうか。

事務局：先ほどの話ではないですが、輪島市はこうだった、でも、能美市はどうするのということを考えてもらうようにしたいので、輪島市の例が、そのまま、能美市にくるのではなく、能美市は、能美市としての絆や支え合い等を考えてほしいというようなところで、「報告」という言い方にしようかなと思ったのですが。

今川委員：でも、何か、うまい具合のものを考えなければ。「報告」だけではちょっと…。

事務局：はい、また考えます。

高塚委員長：それでは、今後の予定についてお願いします。

事務局：前回のアクションプラン推進協議会の時に評価といったものをどうするのかという話が出て、それは「質」だという意見が出ていました。「人づくり委員会」の中での評価というものと、かぶるところがあるのですが、例として、グループホームの第三者評価についても話が出されていました。

「質」を評価するというものを、案を出してみたいということでしたので、本日、お出ししましたこの資料ですが、「人づくり委員会」の中でも、資料としては出ているのですが、まだ、協議までは行けなかった資料です。この評価という、地域福祉の「質」をどうするのかということについて、今も話に出ていましたが、本当につたない案で申し訳ないのですが、たたきを一応、今日、出させていただきますので、是非、今日、持って帰っていただき、たたきを直していただきたいんです。

取りくみの進捗が、ズルズルといく恐れがあるということで、何か、たたきを出せば、また、ここでも検討しやすいかなと思いますので、次回くらいまでに皆さんに考えて頂けたらと思います。

今川委員：これは宿題ですね。

事務局：宿題と申しますか、たたきをお示しいたしました。4番については、以上です。

高塚委員長：住民満足感というのは、「よい、悪い、普通」を全ての欄に入れて、丸だけつけるような形にした方がいいかもしれませんね。

それでは5番は、次回の開催日を決めるという事でよろしいですね。

事務局：今回は、予定では、11月になっております。

高塚委員長：11月中旬あたりかなと思うのですが。

事務局：10月11日に中間報告をされて、また、みなさんからの意見を受けての話もしなければならぬかなと思いますので、中旬より少し、前の開催かなと思うのですが。11月10・11・12日あたりはいかがですか。

委員長さん、11月10日、月曜日ということでいかがでしょうか。

高塚委員長：大丈夫です。

事務局：場所は、辰口健康福祉センター ホールにさせていただきまして、また、都合が悪ければ、他の部屋、場所を考えていきます。

高塚委員長：それでは、5番まで終わりましたので、事務局の方にお返し致します。

事務局：次に、皆さんのお顔を拝見するのが、10月11日、土曜日ということになります。

資料的なものもできましたら、その段階で皆さんに先にお送りさせていただきます。

今日、お出しした評価の資料もたたきのたたきです。「何かないと」という程度なので、あまり、とらわれることなく、でも、次回には、少し話を出していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

今川委員：社会福祉大会では、応援はいらぬのですか。

事務局：応援は、必要かと思ひます。他のアクションプラン委員の人にももちろん、ご案内を差し上げてありますが、登壇するのは、委員長さんだけですね。

今川委員：社会福祉大会の準備の応援は、いらぬのですか。

事務局：大会の準備については、特に大丈夫だと思います。ありがとうございます。

局長：それでは、次回の開催は、11月10日月曜日になります。その前に、10月11日土曜日、社会福祉大会での報告になります。よろしくお願いいたしますと思っております。私どもの方からは、以上です。皆さんの方から、特に連絡事項がなければ、これで、閉会の挨拶を西川副委員長からお願い致します。

西川委員：私、緑が丘に住んでいるのですが、9月8日に天狗祭りがあったのですが、壮年団として参加しました。壮年団の人たちといろいろ話をしたんですが、住みよい町を作ろうという皆さんの思いというものが溢れており、そのような気持ちを持って、汗を流して参加している人たちを心強く思いました。

私たちは、アクションプラン委員会というと、フレームワーク、つまり仕組みの問題を扱っているわけですが、忘れてならないのは、「思い・気持ち」であり、それを大事にしていきたいなと思いました。一言、お伝えしたかったので述べさせていただきました。

今日は、ありがとうございました。次回の参加をまた、お願いします。